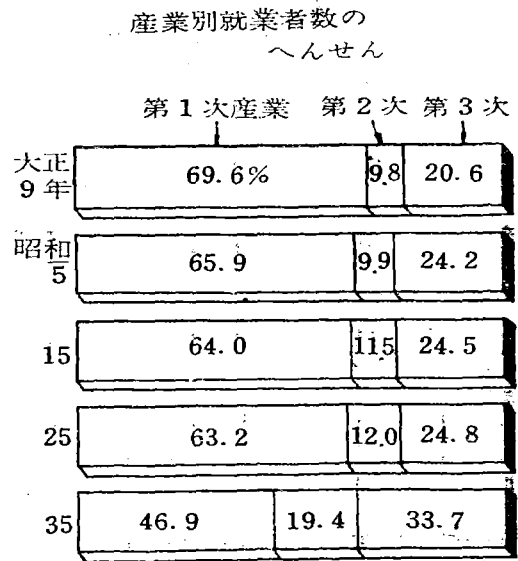


18. 産業別就業者数の推移

国や県の経済発展段階を示す指標として用いられる産業構造を国勢調査の結果からみると、昔から本県は農業県で知られているとおり農業や、水産業に従事する人々が約半数以上を占めていた。大正9年の第1次産業就業者数は、全就業者数の69.6%であった。

しかし昭和15年64.0%，35年46.0%と次第にその割合は少なくなり、その反面第2次および第3次産業の就業者数の割合が高くなってきた。

また、従業上の地位も家族労働から雇用労働へと近代化し、今後も企業の県内誘置によって益々高度の産業へと就業者は移行するであろう。



各年10月1日現在

年	総数	第1次産業		第2次産業			
		農業、 狩猟業	林業、 養殖業	鉱業	建設業	製造業	
大正9年	714 952	466 973	30 463	782	13 870	55 447	
昭和5	752 841	472 083	24 397	443	17 510	56 149	
15	736 521	447 131	24 292	851	15 382	68 510	
22	931 357	573 215	36 954	1 122	29 018	103 569	
25	949 277	564 626	35 518	816	26 002	87 331	
30	1 002 170	526 790	34 799	935	29 538	105 732	
35	1 105 510	479 857	38 273	2 145	48 515	164 348	
第3次産業							
		卸売業 小売業	金融、保 険、不動 産業	運輸、通信 電気、ガス 水道業	サービス 業	公務	分類不能 の産業
大正9年	61 189	1 884	16 551	38 194	19 047	10 552	
昭和5	89 295	2 240	19 077	47 230	24 176	241	
15	82 487	3 958	23 524	52 386	13 078	4 922	
22	54 197	4 888	33 844	63 475	22 655	8 420	
25	91 295	6 794	35 447	72 577	28 392	479	
30	123 887	12 349	41 440	97 108	29 556	36	
35	153 319	17 180	53 079	113 333	35 288	173	